

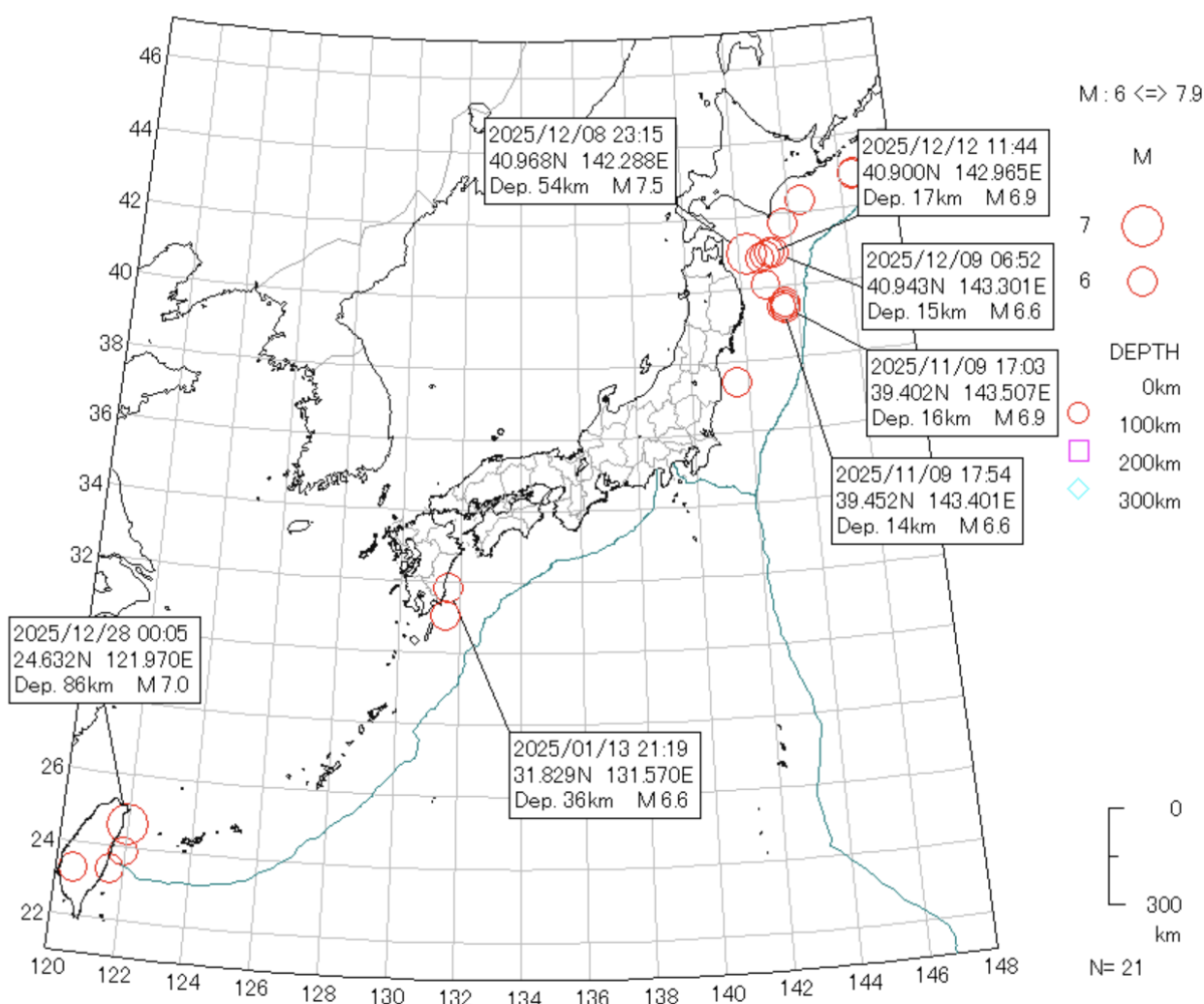


2025年の地震活動概観

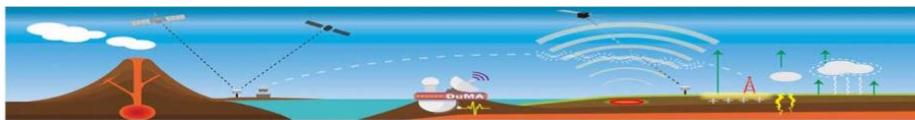
2025年に日本列島およびその周辺でマグニチュード6を超える地震は21個発生しました。この中で最大の地震は12月8日に青森県東方沖で発生したマグニチュード7.5の地震でした。それ以外にマグニチュード7を超えた地震は台湾東部で12月28日にマグニチュード7.0の地震が発生しています。

全体を通して言える事は、東北沖や北海道沖でかなり活発な地震活動が発生した1年であったと思います。特に12月8日の地震をきっかけに、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が制度制定後初めて発令されました。実は北海道から千島列島にかけては過去にも巨大地震が繰り返し発生している事が津波堆積物の調査からも判明しており、現在の状況は東日本大震災発生前の状況にかなり似ていると考えられているのです。以下の地図ではマグニチュード6.5以上の地震に情報を記入しています。

2025 1/1 0:0 — 2025 12/31 23:59



特に北海道沖では17世紀はじめにはM8.8規模の超巨大地震が発生し、北海道東部沿岸に壊滅的な津波が押し寄せた事が判明しています。この地震は1611年～1617年の間に発生したと考えられていますが、アイヌ民族が文字記録を残さない民族であったことから、この年代は津波堆積物の調査から近年導きだされた年代です。



昨年は7月30日にカムチャッカ半島沖でマグニチュード8.8の巨大地震が発生し、長時間津波警報が出た事も記憶に新しいかと存じます。またこの地震で日本で観測された津波は岩手県久慈港で1.4mというものが最も高い津波でした。

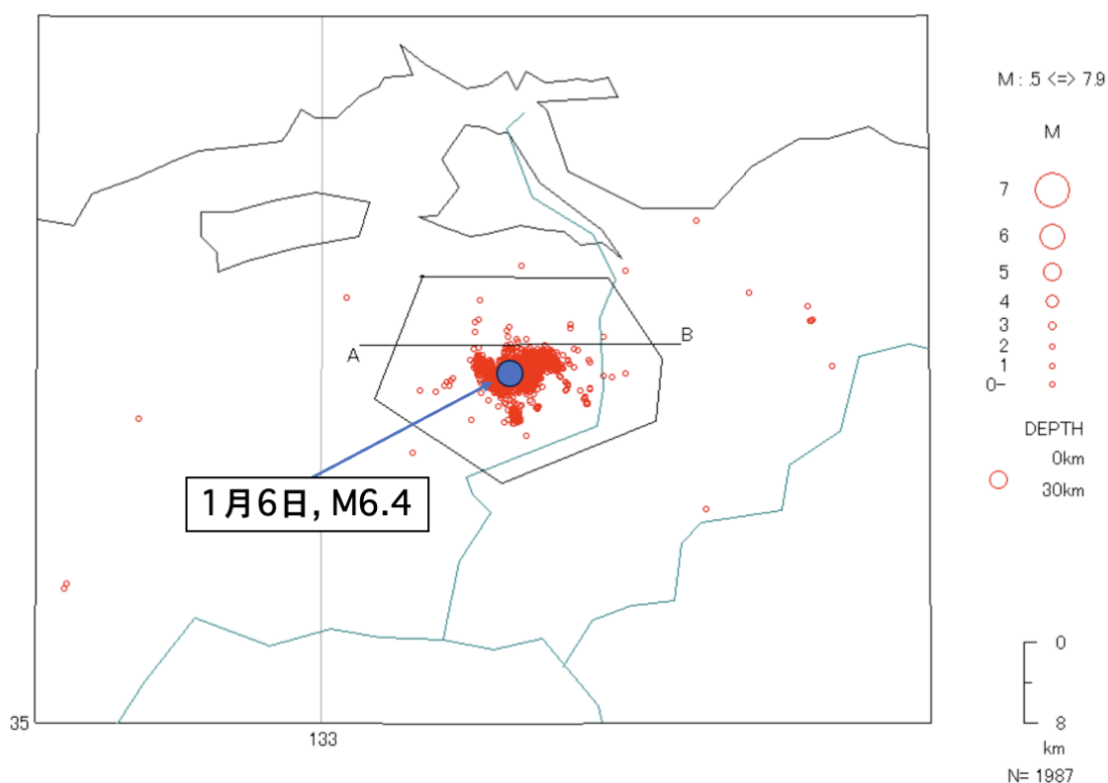
それ以外では、12月28日に台湾東部でマグニチュード7.0の地震が発生しました。この地震では幸い大きな被害はありませんでした。

島根県東部の地震

1月6日、島根県東部で震度5強を観測する地震が発生しました。島根県東部から鳥取県西部にかけては未知の活断層も多く分布しているとされ、2000年には鳥取県西部地震(M7.3)も発生しています。幸い1月6日の地震では死者は出ませんでした。今後、さらに大きな地震が発生する可能性があるかが地震学的にも、社会生活を行う上でも大きな関心事かと思えます。

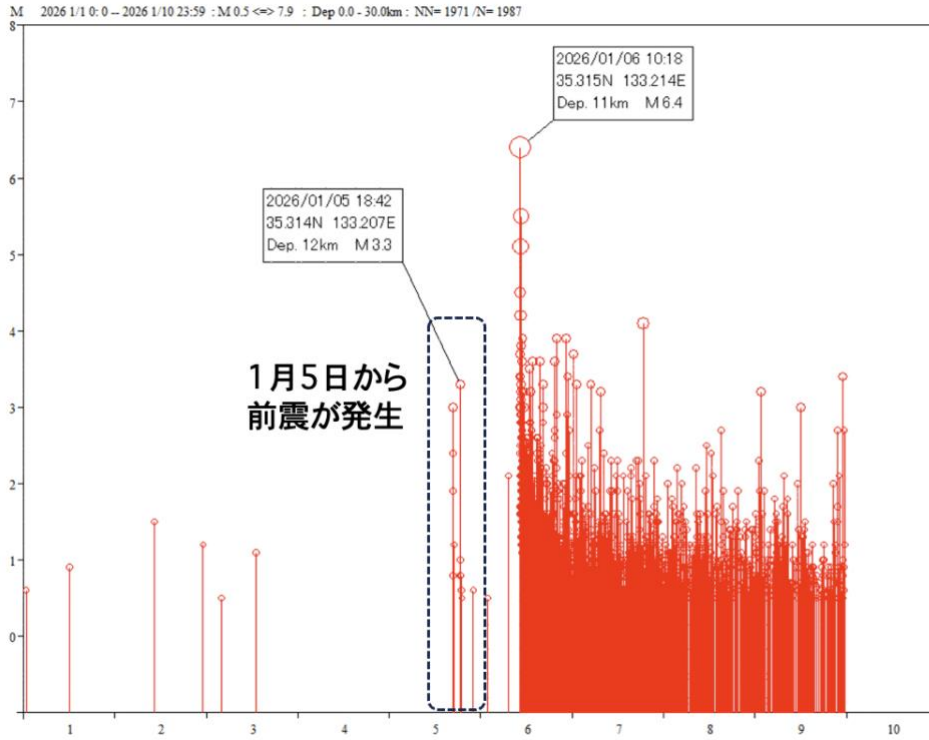
すでに当該地域では6日から9日までに2,000個近くの地震が発生しています。ただ、地震活動は順調に減衰しており、今の所、さらに大きな地震が発生する可能性は極めて小さいと判断しています。

2026年1月の島根県東部の地震活動 (1月1日-10日)



次のページの図は1月1日から9日までの島根県東部の地震活動(上の図で多角形で囲んだ領域)の地震活動の時系列データです。横軸は1月1日から10日となっています(10日はまだデータが公表されていないため、空白となっています)。

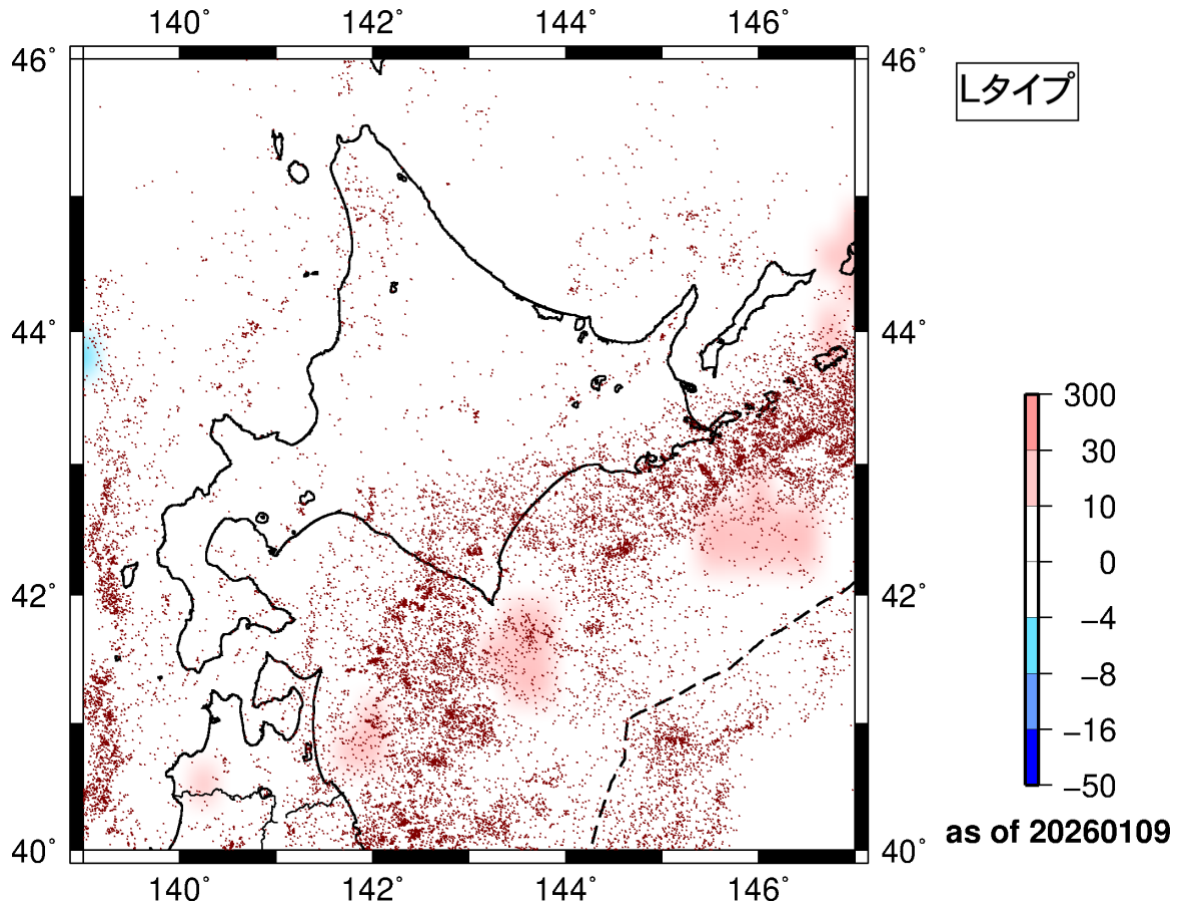
興味深い事に、本震の近傍で1月5日からかなり明瞭な地震活動(=前震)が見られていました。今後はこのような活動をAI等も活用し、「普段と異なる」という事が判断できるシステムを構築する事が必要かと考えています。



1月1日から10日(実際には9日)の島根県東部の地震活動

北海道および九州の地下天気図®

今週号では、昨年12月1日のニュースレターに引き続き、北海道と九州および南西諸島を含む領域の地下天気図をお示しします。いずれもLタイプとなっています。





北海道の地下天気図では、青森沖に出現していた青い静穏化領域が、12月の地震活動で消失しただけでなく、襟裳岬沖合や根室・釧路沖合で赤い地震活動活発化領域が出現いたしました。

次に九州および南西諸島の地下天気図をお示しします。こちらは福岡県・佐賀県・長崎県およびその周辺地域での地震活動静穏化が目立ちます。ただ、当該地域は元々地震活動がそれほど活発な地域ではないため、静穏化の確度はそれほど高くないとも考えています。

日向灘を中心とする地域での地震活動活発化は続いている事がわかります。

